

かわせみ通信

発行：神奈川県自然環境保全センター
自然保護課

住所：神奈川県厚木市七沢657

TEL：046-248-6682

野外施設自然情報

ホームページ、ツイッターもご覧ください！

<http://www.pref.kanagawa.jp/docs/f4y/O1about/top.html>

https://twitter.com/hozenc_kanagawa

自然環境保全センターの野外施設には、身近な自然を観察できる自然観察園（昭和57年オープン）と、樹木一つ一つをじっくり観察できる樹木観察園（旧林業試験場時代の約50年前に整備）があります。

野外施設では、それぞれの季節に、生き物同士の巧みなつながりや、興味深い生命活動など、大自然の不思議な現象にふれることができます。

この「かわせみ通信」では、野外施設の出来事や生き物たちの様子を紹介しています。

＜自然環境保全センターでツバキ観察＞

樹木観察園内のツバキ園には、現在131種類の品種があり、11月から4月頃にかけて順次開花します。きれいな花を眺めるだけでも楽しいですが、せっかくなので、地域の自然や生き物との関わりにも目を向けてみませんか？展示室にある職員手作りのガイドを片手に歩いてみてください。

ツバキの仲間（ツバキ科ツバキ属）は、アジア地域に分布している常緑広葉樹です。江戸時代から多くの園芸品種が作られています。日本にもともと自生しているのは4種類、神奈川県内に自生しているのはヤブツバキのみです。県内のヤブツバキは、標高800m以下のシイやカシなどで構成される常緑広葉樹林のメンバーで、当センターの自然観察園や周辺の低山でも見ることができます。自生しているヤブツバキの花の形や樹形などを観察して、園芸品種と比較してみてください。

続いてはツバキと関わりのある生き物についてのお話。

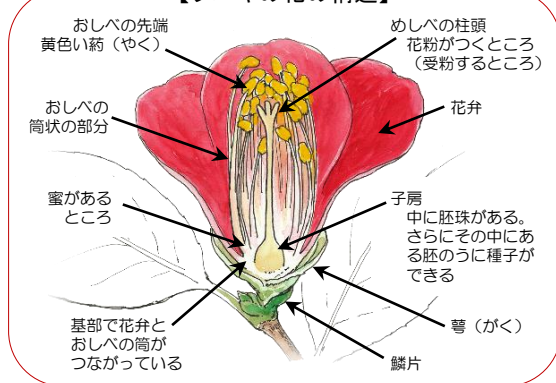
ツバキも他の多くの植物と同様に花を咲かせ、受粉し、実をつけて子孫を残さなければなりません。花粉の媒介者と言えばハチのような昆虫が多いですが、この時期では虫はほとんどいません。そこで活躍するのが、ヒヨドリやメジロなどの花の蜜が大好きな鳥たちです。ツバキの花は花弁や雄しべが基部でつながっています。雄しべは頑丈な筒状で、鳥が蜜を吸うには正面から顔を突っ込まなければならず、自然と顔に花粉がつきます。ツバキはエサの少ない季節に、鳥に蜜を与える代わりに花粉を運んでもらっているのです。

その他にも、ツバキの葉を食べるチャドクガの幼虫（毒があるので要注意！）や、地面に落ちた花から発生するキノコなど、ツバキと関わりのある生き物がいます。ツバキ園でも、少し目線を周囲に向けて、そこにどんな生き物が来ているか、どんな行動をしているか観察してみるのもおもしろそうです。



自生種のヤブツバキ
紅色の花弁が5枚のシンプルな花です。

【ツバキの花の構造】



蜜を吸うメジロ
花の下側の花弁に傷がついていたら、それはメジロがぶら下がった痕跡かもしれません。

くちょっと切ないジョロウグモのはなし>

初夏から秋にかけて職員が園内を歩くとき、ちょっとアヤシイ動きをします。空中に向かって手や木の棒を振りながら前進するのです。理由は、そこら中でジョロウグモが観察路に巣を張っているから。ジョロウグモは黄色と青色の縞模様や大きな腹が特徴の大型のクモです。巣も大きく、金色の縦糸は粘着力が強くベトベトしています。そこに顔を突っ込むとひどく不快なので、クモには申し訳ないですが、棒でクモの巣を壊しつつ進ませていただきます。観察路に巣なんか張らないでよ、と言いたいところですが、ジョロウグモにとってどこに巣を張るかはとても重要です。

【クモ的優良物件】

クモの巣は、家というよりエサの虫を捕るための罠です。せっかく張ったのに、すぐ壊れるようでは困るので、風の通り道や動物の通り道は不適です。かといって、奥まった場所では滅多に獲物はやってこないかもしれません。では、見晴らしの良い、広い空間だとどうでしょう。チョウやトンボがよく通りそうですが、場所が広い分タンパク質でできた糸が大量に必要で効率が悪いうえ、天敵である鳥にも見つかりやすいでしょう。

ということで、①張りやすくて壊れにくく、②獲物が良く取れて、③天敵に見つかりにくい、そんな場所が優良物件と言えそうです。（観察路は獲物がよく捕れそうで人気？ですが、私たちにすぐ壊されるので良い場所とは言えません。きっと・・・）この場所選びはその後のジョロウグモにどのような影響があるのでしょうか。



糸を張るクモ
壊されても作り直します。お尻から出た横糸を後ろ脚で器用に縦糸につなげていきます。
ツイッターでは動画で見られます。(11/9のツイート)

【母グモ頑張る】

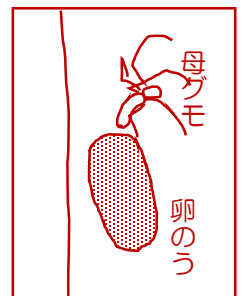
ところで、この大きな巣を作る大きなクモはすべてメス。オスはメスよりずっと小さく、メスの巣に居候しています。確実に自分の子孫を残すため、メスが成熟するのを傍らでじっと待っていて、メスが最後の脱皮をすると交接（精子をメスに渡すこと）を行います。（かわせみ通信第15号参照）

たっぷり栄養を蓄え、交接を終えたメスは、やがて巣を離れて木の幹など卵のうという袋に入った卵を産み付けます。卵は冬場の鳥にとって格好のエサになるので、春に孵化するまで見つかるわけにはいきません。母グモは卵のうの上に何重にも糸をかけ、さらには木の皮やコケなどをくっつけて見事なカモフラージュを施します。

このような、冬を越すための生き物たちの工夫を発見するのも冬の自然観察のポイントとなります。



卵のうの場所、
分かりますか！？



母グモと卵のう
卵のうを守るためなのか、しばらくそばに留まっている個体も見られます。

【寒空のジョロウグモ】

こうして、多くのジョロウグモは冬を待たずに短い一生を終えるのですが、11月下旬になっても、まだ巣に残っている腹の細いクモの姿も見かけます。ここまで十分に栄養を蓄えることができず、未だ産卵まで至っていないようです。春に卵から孵化して同じように成長してきたはずなのに、巣を張る場所によって子孫を残せるかどうか変わってしまう。冬のジョロウグモにはそんな自然の厳しさを感じてしまいます。



寒空の中獲物を待つジョロウグモ

傷病鳥獣救護の情報

※救護の情報やバックナンバーは、ホームページで見られます。

神奈川県 野生動物救護

検索

自然環境保全センター（旧自然保護センター）では、傷病鳥獣の救護業務として、県民の方により持ち込まれた県内の傷ついたり弱ったりした野生動物（鳥類と哺乳類の一部）を収容し、必要に応じて治療やリハビリを行い、野生に戻す業務を昭和53年（1978年）から行っています。この「かわせみ通信」では、持ち込まれた野生動物の「救護原因」や「リハビリ状況」などの情報を掲載しています。

● 2020年7月～9月の集計報告 ●

救護実績

【救護件数上位5種】

種名	件数
ツバメ	21
スズメ	15
アブラコウモリ	13
キジバト	7
ヒヨドリ	7

【主な救護原因】

鳥類の原因	件数
ネコなどに襲われる	13
ガラス窓などへの衝突	13
誤認保護	5
粘着剤に絡む	2
釣り糸（針）や防鳥ネットなどに絡む	1
交通事故	1



哺乳類の原因	件数
疥癬症（かいせんしょう）	2
交通事故	2

受入動物の紹介

7月から10月にかけて受け入れた、あまり持ち込まれない種類の鳥を紹介します。



受付No.200149
種 名：ゴイサギ
受入日：2020年7月24日
救護場所：小田原市内の民家の庭
救護原因：不明
受入時の状態：左脚（黄色い線4箇所）、左翼を骨折（赤矢印）
放野日：2020年9月16日
●複雑骨折していた為、生存が危ぶまれましたが、治療により骨折箇所がわからないくらいの状態で放野することができました。



受付No.200218
種 名：オナガガモ
受入日：2020年10月14日
救護場所：小田原市内の道路上
救護原因：交通事故の疑い
受入時の状態：左上腕骨開放性骨折（黄色矢印）
現在の状況：鳥カフェで飼養中
●ケガにより飛ぶことができません、現在は他の鳥と同居中です。



受付No.200222
種 名：バン
受入日：2020年10月22日
救護場所：厚木市内の駐車場
救護原因：不明
受入時の状態：起立不能、左側に両脚を投げだしていた
現在の状況：リハビリ中
●最初は立てなかったものの、治療とリハビリで壁に寄りかかり、少しだけ立てるようになりつつあります。

<保全センターの公式Twitterから>

当センターでは多くの放野シーンを撮影していますが、カメラで動物を追いかけるのは難しく、その多くは手ブレやピンボケ、フレームアウトなど思ったようにポーズをとったりしてくれません。今回は、その中からアブラコウモリとイタチについて、こぼれ話も含めてご紹介します。

受付No.200136～145（10頭）

種 名：アブラコウモリ

受入日：2020年7月21日

救護場所：平塚市内

救護原因：人為的介入による育児放棄

受入時の状態：2.9g～3.8gと授乳中の大きさ

放野日：2020年8月12日

●保護した方の話では、自宅の換気口のカバーを外したところ、中から親と思われるコウモリが飛んで逃げてしまい、戻ってくることはなかったそうです（育児放棄）。

コウモリは平均2～3頭出産するようなので、今回持ち込まれた10頭（図1）は、もしかしたら4家族くらいが生活していたのかもしれません。

●毎日の世話は朝夕2回、職員がつきっきりになり1時間半以上かけて、夏の暑さの中汗だくになりながら黙々とエサ（図2の黄色矢印）を与えました。その結果、放野直前には夕方になると室内を飛び回るようになりました。しかし、職員の腱鞘炎や眼精疲労など身体がボロボロになったことは想像に難くありません。

●Twitterの放野シーンでは、コウモリがうごめく姿をご覧ください。



図1 タオルにしがみつくコウモリ



図2 ミルクと昆虫の中身をすりつぶしたエサ



受付No.200192

種 名：イタチ

受入日：2020年9月1日

救護場所：中井町内の道路上

救護原因：交通事故の疑い

受入時の状態：神経症状あり、

右耳介後部裂傷（赤色矢印）

鼻すじ腫脹（黄色矢印）

放野日：2020年9月16日

●写真で見ると可愛らしいですが、実際は体が柔らかく俊敏で、捕まえようとなると咬まれてしまう程どう猛でした。Twitterでは、放野シーンと威嚇した際に見えた牙をご覧ください。



今までの救護動物放野シーンなどを以下の日付でツイートしています。是非、ご覧ください。
ツバメ（4/22）、タヌキ（5/19）、スズメ（6/11）、アブラコウモリ（9/4）、イタチ（10/21）、ツミ（11/1）、トビ（11/3）、カルガモ（12/3）